



Size : 530×455mm (F10)

「真夏の交差点」

この絵は昨年8月下旬の正午近く、東京環状7号線を羽田空港方面に向かった車の窓からの風景です。

環状7号線の正式名称は東京都道318号線と言い、東京23区を環状に取り巻く一般道（路線延長約52km）では最も外側にあります。道路の誕生は1927年に旧東京市が計画を策定し、曲折を経て羽田空港から北の整備を1964年オリンピックの開催に間に合わせ、その後1985年に全線開通しました。片側2車線のこの道路は、現在平日6～7万台の車が行き交う東京都の大動脈となっています。

私事ですが、30年ほど前この環状7号線の近くに引っ越しし、家の外壁や塀にこびり付いた黒い粉塵を洗い落とした事を思い出します。当時の物流を担ったトラックから大量のPM（粒子状物質）やNO_x（窒素酸化物）が放出されていたのが原因でした。この状況に対し1999年当時の石原都知事が「ディーゼル車NO作戦」を打出されたことを懐かしく思い出します。

青空の中の入道雲は積乱雲の出来始めの段階でしょう。雲の中では雲粒が毎秒数10cm～数mで上昇し水滴や氷粒になると言われます。更に発達すると中で上昇流と降下流が生じ雷を伴いながらの雷雨となります。昨今災害を引き起こす線状降水帯はこの積乱雲が連なったものと言われます。連なって欲しくないですね。

30℃を越す炎天の中、道路には沢山の車が、そこを横断する人達が、空には道路に覆い被さるように入道雲が交差しているんだなと、もう一人の自分がこの絵を描き上げていました。



菊岡 保人